

第3回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2024年9月17日(火) 19時~20時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 18名

- ◇実践報告 山形大学附属特別支援学校 阿部友幸先生
「食べ物で困っている人のためにできることを考えよう」

【実践概要】

- 知的障害のある児童・生徒 小学部16名、中学部17名、高等部20名 計53名
総合的な探究の時間の4グループのうち一つのグループ5名(高等部2年3名、3年2名)での実践
これまで総合的な探究の時間では、地域の高校の福祉科の生徒と後期に2回交流するだけだった
年間を通したSDGsに関わるグループでの探究活動をしたいと考えた
生徒の関心から、SDG2「飢餓」について探究することに 5月に学習開始
飢餓・・・空腹(お腹ペコペコ)
5名のうち、いちばんできる子で小学校5年生程度と考えられる
この時点では、「食べ残しをしない」など、自分の行動のみに注目し。問題が分かっていない
→ 世界の状況について調べ学習 9~10人に1人が、食べ物がなくて困っている
栄養が足りないと病気になりやすい 大きくなれない 死んでしまう人もいる
なぜ食べ物がないのか? 災害、貧困、戦争・・・
日本にも困っている人はいないのか?
フードドライブをしている「やまがた福わたし」 山形のスーパーでは食べ物を入れる箱が置いてある
企業や個人から食べ物や日用品を寄付してもらい、要支援者へ届ける
生徒から「やまがた福わたし」に連絡をとり研修をお願いする(なかなか自分で電話する機会がない)
→ オンライン交流 あとから小分けした動画を見直して理解する
その後、教師自身がフードドライブの研修に参加
「お福分けプロジェクト」をやりたい! 家で余っている食べ物を困っている人に届けたい!
→ まず自分たちがやって、他の人にも協力してもらおう!
10月 家で余ったものを持ち寄る(缶詰、いただき物)
「うちは母が使い切る分しか買わないから余り物がない」
マックスバリューに見学 「福わたし」の「お福わけBOX」が設置されている 食品を入れてみた
「なぜ箱を置いているのか?」店長より話を聞く 「なんとか協力したかったから」
「1日100円しか使えない人」 実際に100円で買ってみる・・・お菓子ぐらいしか買えない
↓
学校でもフードドライブをやってみよう! 福わたしに相談してみよう!
→ (福わたし)「県庁なら話をしてもらえ」 「県庁に電話してほしいしょう!」
12月 県庁でフードドライブについて説明を聞く
フードドライブの準備(チラシ作成、配布)

1月 フードドライブ実施 4日間、朝の時間、生徒昇降口で 地元テレビ局の取材
食品の種類に分け、コンテナに整理 数ではなく重さでチェック
贈呈式・・・福わたり代表の伊藤さんに初めて出会う

伊藤さんから、要支援者からの声を直接伝えてもらう

食べ物で困っている人がどんな思いでいるのか、どう助かるのか実感する

(生徒の振り返りから)

- ・「初めて困っている人を助けることができました。」 自分が課題解決に貢献したことの実感
- ・「山形にも食べ物に困っている人がいることが分かりました。」 地域の課題への気づき
「やまがた福わたりさんみたいに、困っている人を助けている人がいることが分かりました。」
- ・「これからも食べ物の寄付を続けたい。」
- ・「困っている人を助ける他の方法について知りたい。」
「買い物をするときに、余らないように上手に買うようにしたい。」
「食べ物を無駄にしないように努力したい。」

【意見交流】

- ・助けてもらうことが多い特別支援の子どもが、「初めて困っている人を助けることができました。」と実感していることが、この実践の大きな価値だと感じる。
- ・この取組をいかに継続していくかが大事だと思うが、特別支援学校ではなかなかハードルが高い。学年単独では難しいので、学校全体の取組になっていけばいいと思うのだが。
→ 文化祭などのイベントとくっつけてできないか。
夏休みのボランティアなどでできないか
1学期だけなど期間限定でボランティアを募ってやるのが現実的かも。
保護者や地域巻も巻き込むといい。
小学校であれば継続できそうな感じもする。
- ・「社会とつながる」実践になっていて素晴らしいと思う。
- ・自分の学校ではフードドライブの取組をやっているが、行事化されてしまってその意味について深く考えるような取組にはなっていない。「何のために」やっているのかをしっかりと学ばせたい。
- ・特別支援の子どもたちがいかに社会とつながるか、社会の役に立てるか、このように意図的にかつ生徒主導で活動できるようにされていることが素晴らしいと思う。
- ・自分たちで今後の方向性を生み出していくことが大事なんだと感じた。
- ・ESDの研修に参加して、ゲストティーチャーとの出会わせ方や、単元構想図の大切さが分かり、この実践でも非常に役立った。
- ・高等部として、作業所でするような仕事と関連させてフードドライブをやってみると、卒業後の進路にも関わっていいかもしれない。
- ・特別支援だからできた、できないではなく、根底にあるのは「誰一人取り残さない教育」と考えたら、これはまさにESDだと思う。
- ・「社会の役に立つ」経験が、学びの深まりにつながっている。こういう社会参画こそが学びの中で体現されれば、ESDとしての価値も大きくなると思う。